

◆ 秋

秋は、「キノコ」。春の山菜と同様、登りで収穫して昼食にしたり、また、下山の際に収穫し、晩ごはんにします。キノコの他にも、クマやイノシシ等の肉という楽しみもあります。ニンニクや生姜等を使い、臭みや硬さをなくせば、大変おいしく食べることが出来ます。



キノコ採り (秋)

◆ 冬

冬といえば、「スノートレッキング」。雪山登りの良さは、虫がいないこと。また、雪のおかげで普段通ることのできない道を通ることができ、慣れている山の新たな側面を発見することが出来ます。

■ 山の移ろい

昔は、生活の燃料を確保するために山に入り、木を伐っていました。そのため、木は今ほど大きくはなく、山登り中は、上下左右どこを向いても遠くまで見ることが出来ました。

しかし、石油やプロパンガスの普及に伴い、人が山に入る回数は減りました。今はほとんどの木が大きくなり、樹木に囲まれ、木漏れ日の中を歩く山登りとなりました。今と昔で山登りで見える景色は変わりましたが、それぞれ大変趣きがあり、私たちを楽しませてくれます。



スノートレッキング (冬)

■ やうばん

なぜ山登りが好きなのかを聞かれれば、「そこでしか見られない景色があるから」と私たちは答えます。グーグルマップなどの普及により、さまざまな地域の風景等を見ることができるようになりましたが、実際に見る景色はまったく異なります。

また、全国の山々を登り、さまざまな体験をしてきました。山菜採りや景色などの楽

しみはもちろん、上から石や岩が落ちてくる危険もありました。サルやイノシシなどの動物たちとも遭遇します。そのような山の中で、ヘルメットを着け、ワクワクハラハラしながら自分の足で登るという満足感は、他の何ものに代え難いものです。

だからこそ私たちは、そのような山の美しさや怖さを楽しみたいという衝動に駆られ、山に登り続けるのでしよう。



いとう たかし
伊藤 隆 さん

昭和 29 年生まれ 荒砥甲在住
10 歳の頃から、山菜採りやキノコ採りを行い、山と親しんできた。
昭和 50 年に白鷹山岳会に入会し、平成 21 年から同事務局長を務めている。



もり 森林と共に

山を

楽しむ

■白鷹山岳会と 町民登山

白鷹山岳会は、昭和39年4月に「白鷹山の会」と「役場山岳会」が、発展的解消して新たに設立しました。一時期は70名を超える会員が毎月山に入っていました。現在は、26名程の会員があり、登山道の整備や山岳救助等のボラン

ティア活動を行っています。また、頭殿山や葉山をフィールドに、町民が山に親しむための町民登山を春・秋の2回開催しています。

■四季折々の楽しみ

山登りは、怪我をしないことが大切です。慣れていない方は、転ばないように足元に注意しながら登ります。ただ、山登りを更に楽しむには、周りの景色も見ながら登

◆春

春といえば、「山菜」。登っている最中にタラの芽やコシアブラなどを収穫し、その山菜を具材に、山頂で昼食をとります。調理器具を持っていくことが難しい場合は、帰りに収穫しその日の晩ごはんとなります。

することも大事です。四季折々の楽しみを私たちに与えてくれます。

◆夏

夏といえば、百花繚乱の「高山植物」。多くの植物にとって、標高が高いところは積雪や気温も低く、生育には難しい環境となりますが、高山植物は生長が可能です。そのため山では、普段見ることができないような高山植物の群落地を見ることが出来ます。また、イワナ釣りも楽しみの一つです。最近では釣れる場所が少なくなってきましたが、釣ったその場で食べるという楽しみは忘れられません。



ふるな まさゆき 古名 正幸 さん

昭和20年生まれ 横田尻在住
幼少期から、父親とアケビ取りや柴刈りを行い、山に親しんできた。
20代の頃に本格的に登山をはじめ、昭和45年頃に白鷹山岳会に入会。平成14年後半から同会長を務めている。



イワナ釣り (夏)



山菜採り (春)